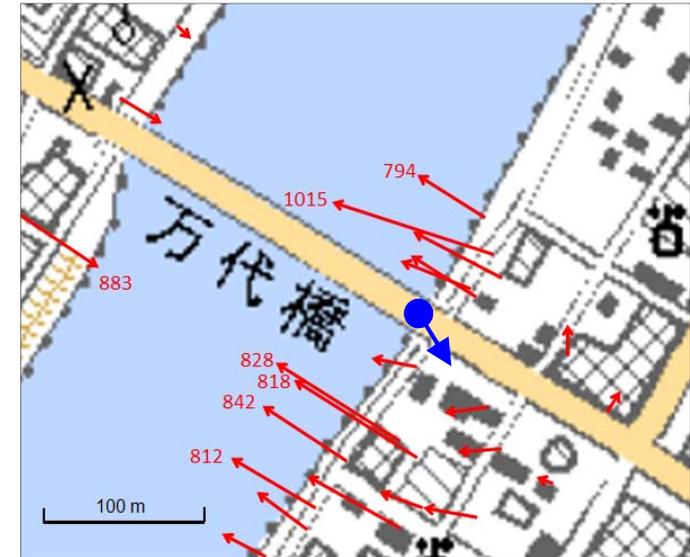
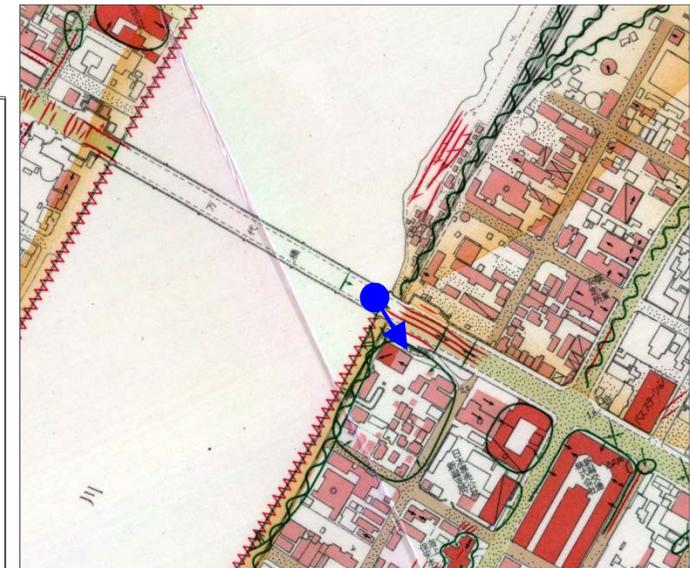


61.万代橋東側



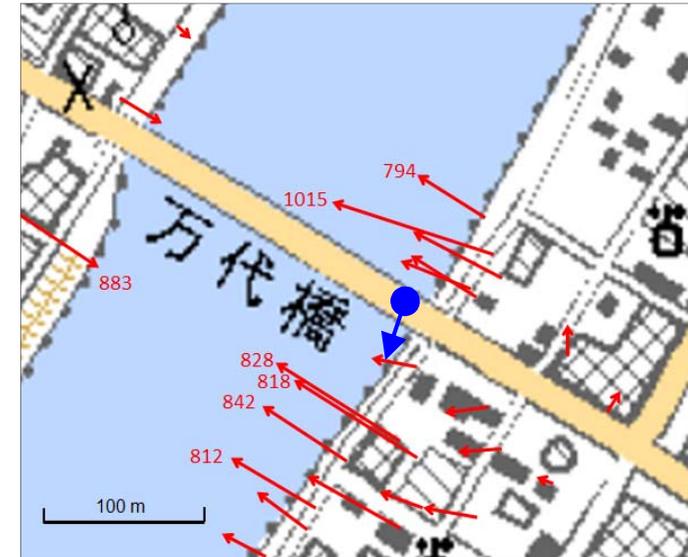
地盤変位ベクトル図

水没した道路を通過して約4km歩いて午後4時頃、沼垂の自宅にたどりついたが、自宅は液状化で大被害を受けていた。父親の指示で、約12km西方の寺尾にある店の様子を見に行くことになった。水没した道路を再び通り、この写真は、自宅を出発した後の最初の1枚。取り付け道路の盛土が沈下している。中央奥の工作物が倒れているが、正体不明。



地盤災害図

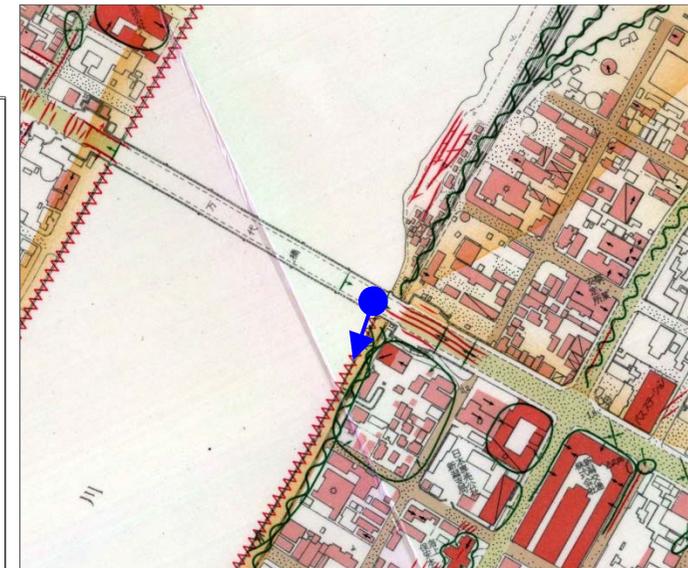
62.万代橋東側



地盤変位ベクトル図

側方流動により護岸が崩壊したところに、津波が遡上した。漂流物が打ち寄せられている。護岸が大きく流出した箇所は、電柱の根元も引きずられている。

地盤災害図凡例	
	亀裂
	鉄筋建造物
	木造建造物
	ガス・石油タンク
	道路
	道路の波状変形
	陥没
	地盤の膨れ上がり
	水平移動
	浸水地域
	直立物体の傾斜転倒方向
	砂泥噴出物
	側溝・防潮堤などの破壊
	無被害地域

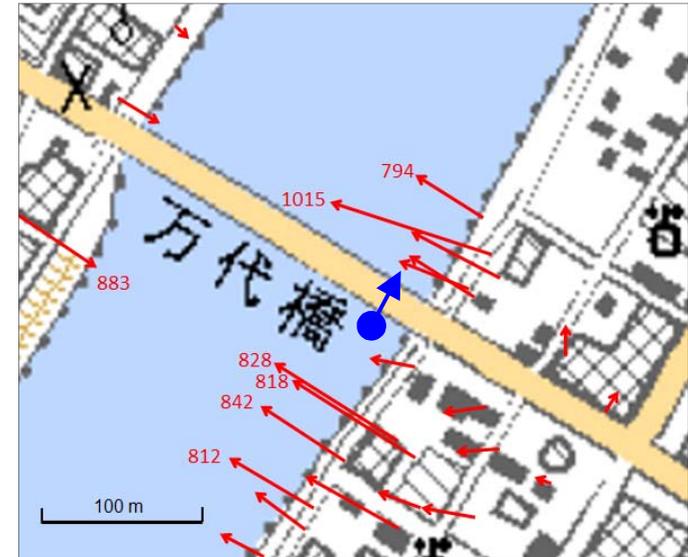


地盤災害図

63.万代橋東側



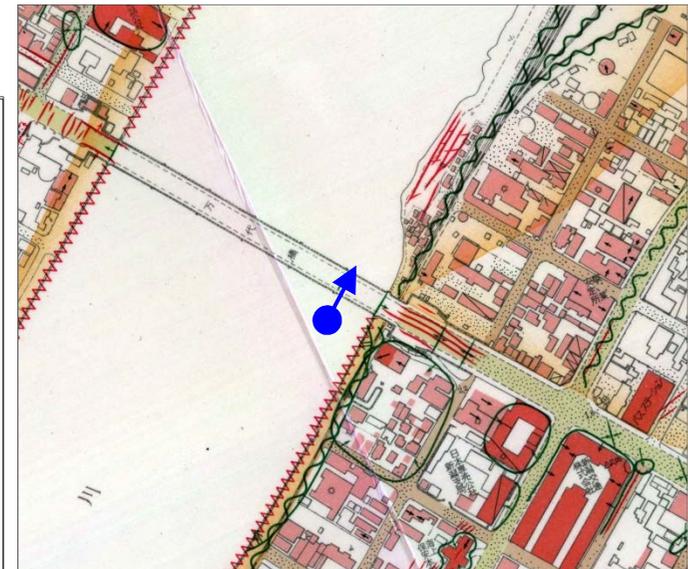
2箇所から黒煙が立ち上っている。火災に目もくれず家路に急ぐ人も少なくない。



地盤変位ベクトル図

地盤災害図凡例

	亀裂
	鉄筋建造物
	木造建造物
	ガス・石油タンク
	道路
	道路の波状変形
	陥没
	地盤の膨れ上がり
	水平移動
	浸水地域
	直立物体の傾斜転倒方向
	砂泥噴出物
	側溝・防潮堤などの破壊
	無被害地域

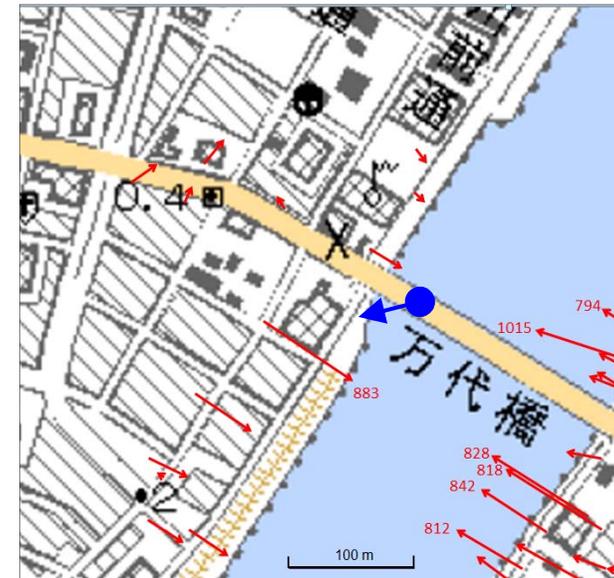


地盤災害図

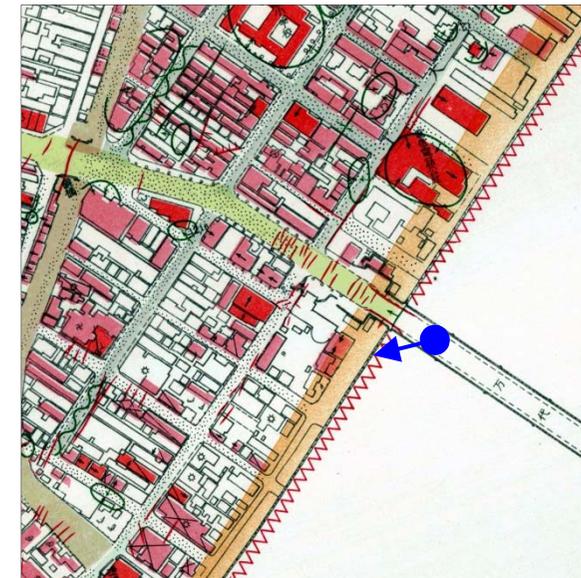
64.万代橋



側方流動により護岸(手前)が沈下して割れ目が入り、津波が浸入した。液状化で沈下した建物も浸水し、車2台が土中深く斜め沈み込みこんでいる。液状化した地盤にはまり込んだところに津波で浸水したと思われる。家屋や電柱の根元が川側(手前)に引っ張られるような形で傾斜している。液状化と津波の複合災害の典型である。



地盤変位ベクトル図



地盤災害図

65.八千代橋北側



噴砂や浸水で道路がぬかるんでいる。泥はねなど気にしてられない。冠水していないだけマシだ。



地盤変位ベクトル図



地盤災害図

66.八千代橋北側



噴砂と津波でぬかるんだ道路。早くも住民が協力して泥を除去している。

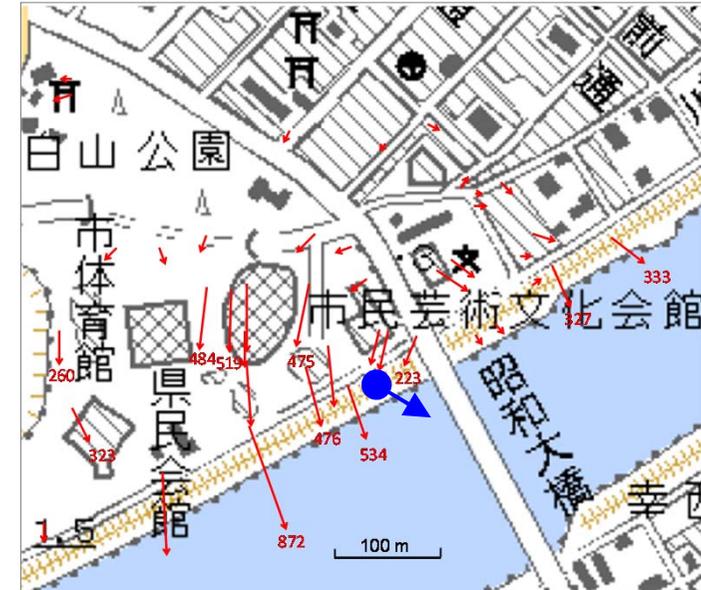


地盤変位ベクトル図



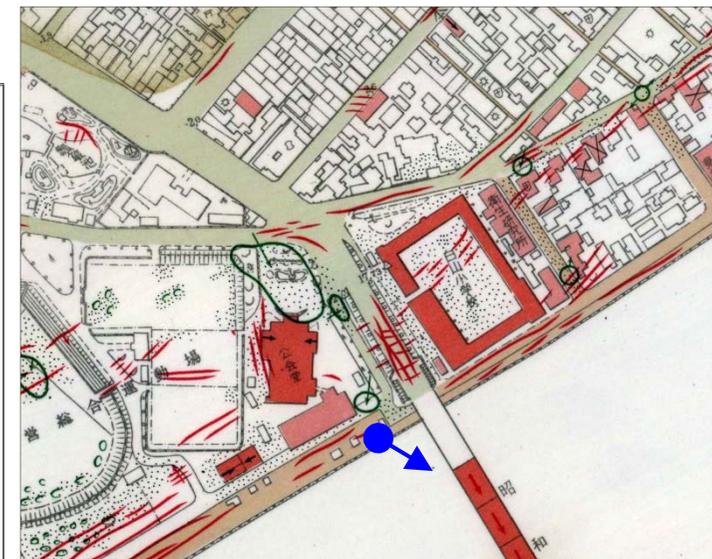
地盤災害図

67.昭和大桥北側



地盤変位ベクトル図

供用開始後、わずか15日で落橋した昭和大桥。護岸は側方流動により、川方向へ滑り出し、沈下して亀裂が多数発生した。

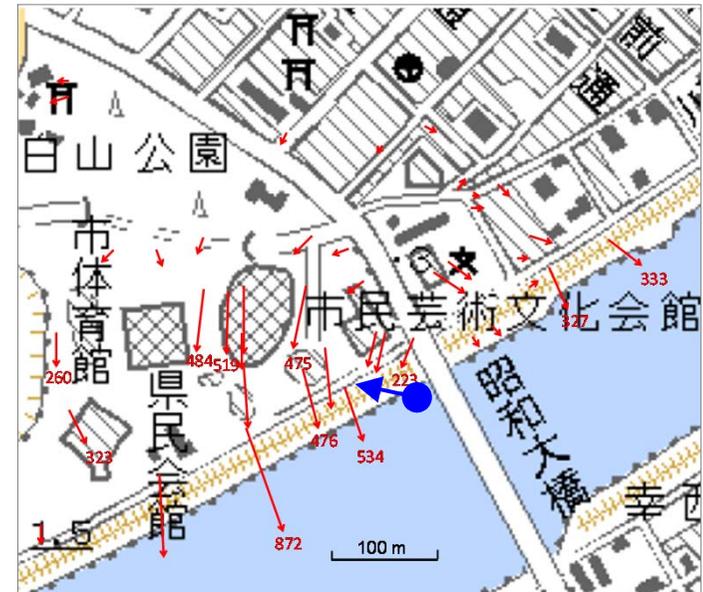


地盤災害図

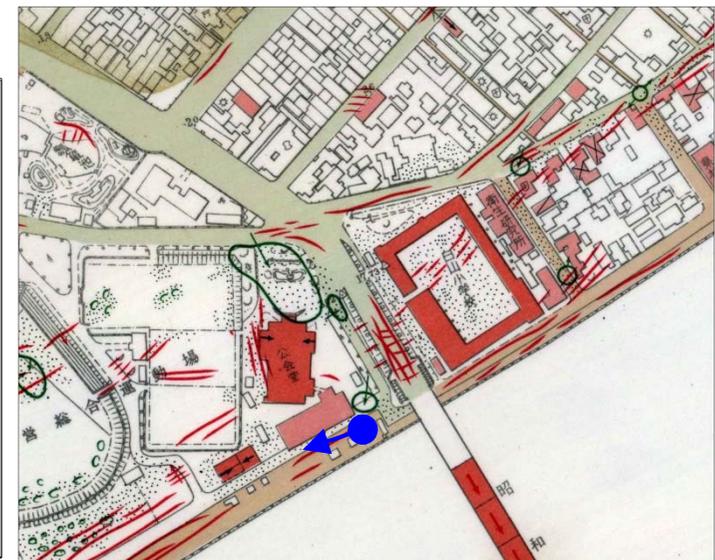
68. 白山高校



噴砂や津波の浸入により冠水した川岸。
右手の木造校舎は沈下して大きく歪んでいる。



地盤変位ベクトル図



地盤災害図

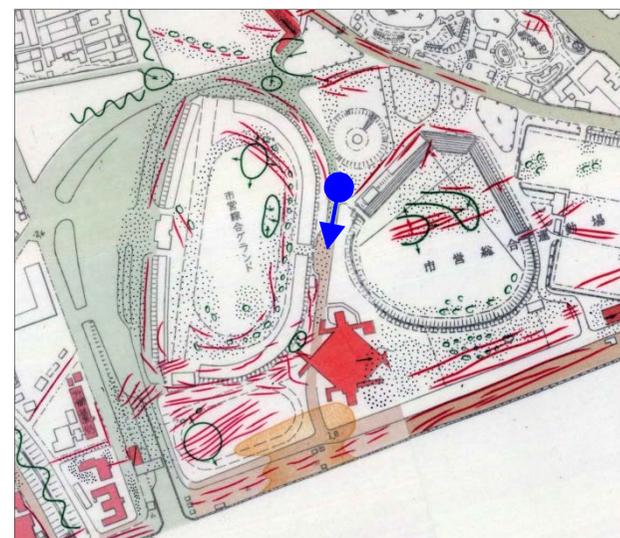
69. 県立競技場



仮設スタンド、建物やフェンスが沈下して大きく傾いている。



地盤変位ベクトル図



地盤災害図

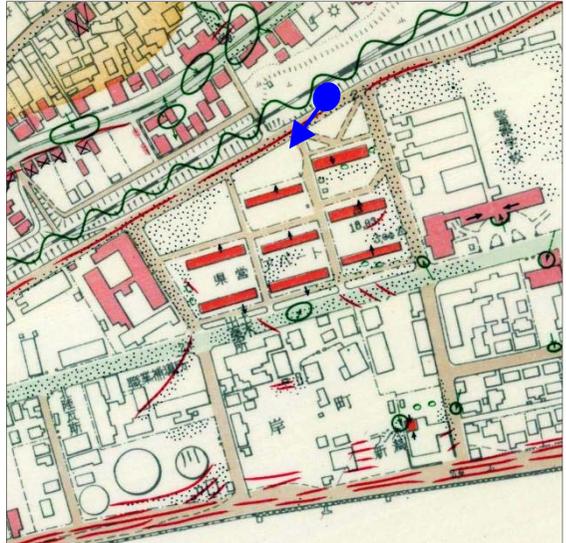
70.川岸町アパート



地盤変位ベクトル図

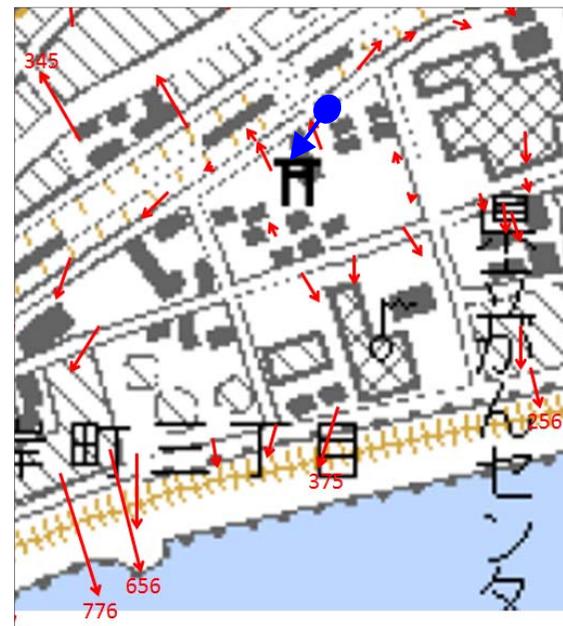
アパートが沈下して傾いている。傾いた方向は前や後ろとまちまちだ。このアパートは4階建てだが、杭は打たれておらず直接基礎だった。手前には噴砂も見える。

- 地盤災害図凡例**
- 亀裂
 - 鉄筋建造物
 - 木造建造物
 - ガス・石油タンク
 - 道路
 - 道路の波状変形
 - 陥没
 - 地盤の膨れ上がり
 - 水平移動
 - 浸水地域
 - 直立物体の傾斜転倒方向
 - 砂泥噴出物
 - 側溝・防潮堤などの破壊
 - 無被害地域



地盤災害図

71.川岸町アパート

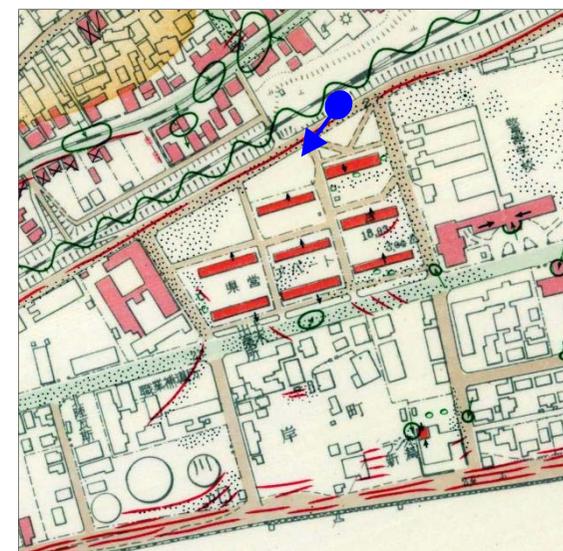


地盤変位ベクトル図

前と同じ写真のクローズアップ。手前に噴砂やマンホールの浮き上がりが見える。頑丈そうなアパートが傾いたのに、電柱がほぼ真っ直ぐ立っているのが不思議。

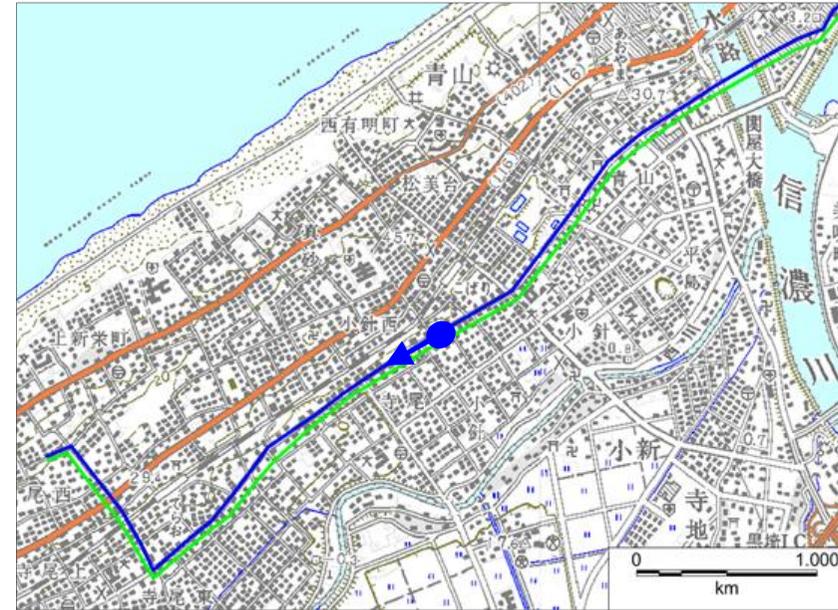
地盤災害図凡例

	亀裂
	鉄筋建造物
	木造建造物
	ガス・石油タンク
	道路
	道路の波状変形
	陥没
	地盤の膨れ上がり
	水平移動
	浸水地域
	直立物体の傾斜転倒方向
	砂泥噴出物
	側溝・防潮堤などの破壊
	無被害地域



地盤災害図

72. 県道16号(小針付近)

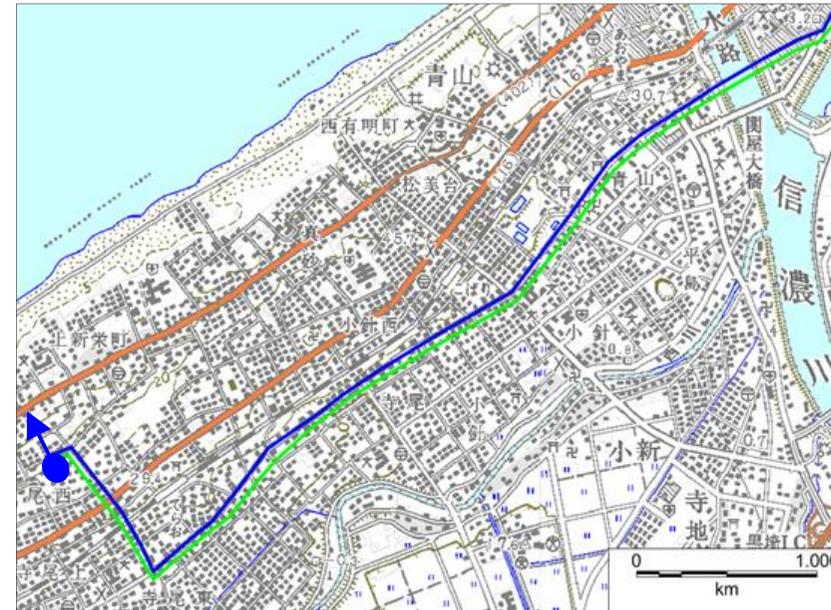
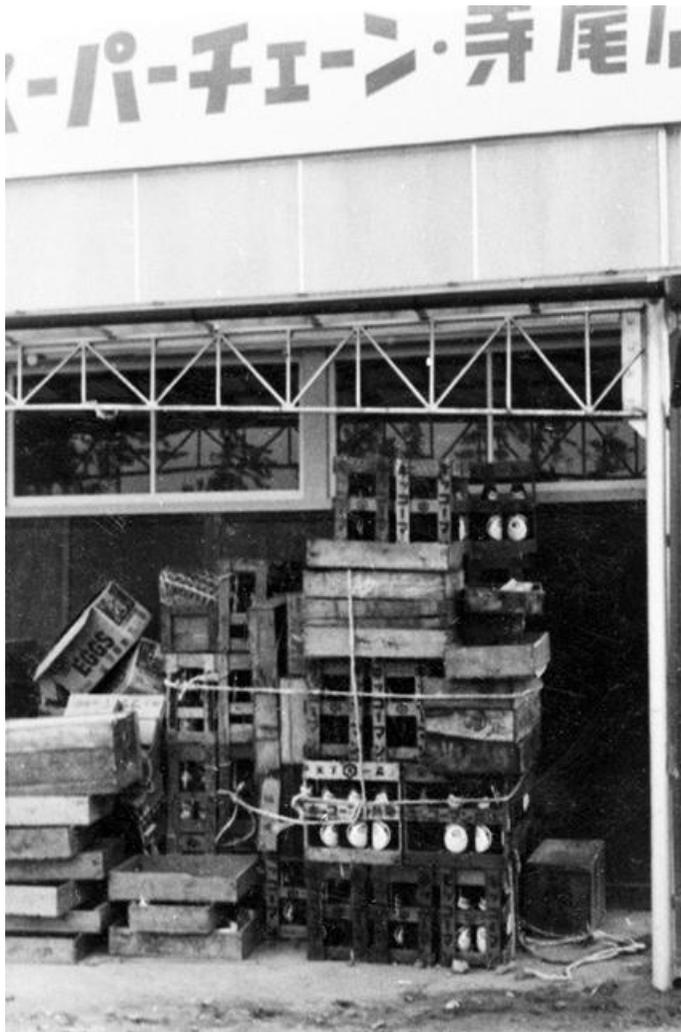


国土地理院1/5地形図「内野」を使用

※No.72～81の撮影地域では、地盤変位ベクトル図と地盤災害図は作成されていない。

県道16号線は、砂丘地帯に沿って走る道路で、砂丘では地すべりなどの地盤変状が多発した。この場所では、地盤が隆起して道路が崩壊している(砂丘の緩斜面が滑って、のり先部が盛り上がったのか?)。左側の電柱は同じ方向に傾いている。

73.竹内氏の自宅(寺尾店)



国土地理院1/5地形図「内野」を使用

※No.72～81の撮影地域では、地盤変位ベクトル図と地盤災害図は作成されていない。

寺尾の竹内さんの商店。たどり着いたのは午後7時半頃。瓶の箱は、倒れていなかった。やれやれだ。念のため、余震で商品が崩れないように縄で結わえた。夏至に近く、日暮れが遅かったのが幸いした。